2020 年 11 月 15 日発行

大町山岳博物館友の会　第　185　号

ゆ き つ ば き 通 信

行事のご案内（友の会主催事業）

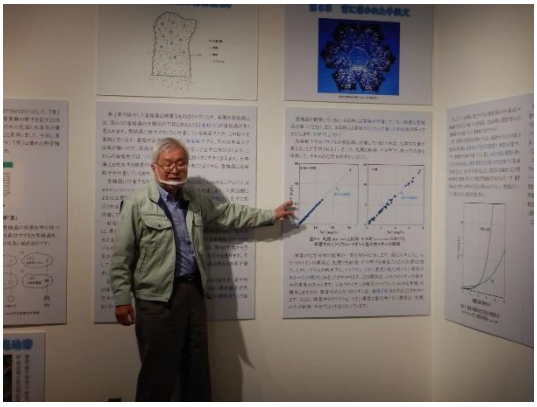
ゆ き ん こ ２　南極の秘密

前年度に続き「ゆきんこ 2」として二度の南極観測隊員の経験がある鈴木啓助山博館長に、南極のお話をしていただきます。また、積雪状況によりますが、屋外にて雪の観察も予定しています。

《期　　日》　2021 年 2 月 13 日（土）　午後 1 時～午後 4 時
《場　　所》　大町山岳博物館・大町公園　（集合解散 大町山岳博物館）
《対　　象》　友の会会員　子ども～大人（1 時間程度の屋外活動あり　会員知人同伴可）
《募集人員》　20 名（定員になり次第締切）
《講　　師》　鈴木啓助大町山岳博物館館長
《参 加 費》　無料
《持 ち 物》　防水防寒具（含　手袋、靴下予備）　帽子　サングラス　筆記具［可能ならば、ルーペ　雪スコップ］
《申し込み》　1 月 29 日（金）まで　電話・FAX または直接、友の会事務局へ（Tel/Fax0261-23-6334）

※企画展「雪が織りなす物語」が 2021 年 1 月 17 日（日）まで開催されています。この中で、12 月 19, 20 日、1 月 17 日にはミュージアムガイド（1 回目　午前 10 時 30 分～　2 回目午後 2 時 30 分～　各 30 分程度、内容は同一）が予定されています。鈴木館長が展示の見どころなどを解説されます。

◎10 月 4 日に鈴木館長の解説により、「雪が織りなす物語」のミュージアムガイドが行われました。雪が降るためには、水が気体、液体、固体の３相で存在できる地球であること、大気中に核となる塵などがあることが必要です。さらに日本でこれほどの雪が降るのは大陸の地形や大気循環、暖かい日本海の存在などの条件が必要です。中谷宇吉郎の「雪」、雪は天から送られた手紙であると表現した結晶の違い、人間活動による大気放出物も雪に付着して地上に届くこと、海塩粒子の付着など、現在の化学的な研究も進んでいます。積雪の状態の変化は含まれていた化学物質の析出を伴って、河川などの pH が変化することなどもご案内いただきました。カクネ里などに確認された氷河や昭和 56 年の豪雪のことなど、雪は様々な形で私たちと関わっている認識を新たにしました。



雪が織りなす物語　ミュージアムガイド　鈴木館長　（2020/10/4）

報　告　［友の会協力］

（企画展関連事業　講演会）

さんぱくゼミナール「信州の教育者・地質学者 保科百助
―明治期を駆け抜けた唯一無二の奇才 五無斎にせまる―」

《期　日》　9 月 20 日（日）
《場　所》　山岳博物館講堂
《参加者》　46 名

企画展に関連した講演会は、講師に五無斎保科百助研究会の村田長年（むらたおさとし）先生をお迎えして行われた。2018 年に生誕 150 周年を迎えており、その記念事業実行委員会の作られた資料「五無斎保科百助―時代を切り開いた教育者・地質学者―」をいただいての講演であった。また、信州教育に絡んで補足資料をいただいた。

まず、略歴。県内の地質系の人なら知らない人はいないと思うが、師範学校を出て 10 年間教職に就いたが、以前から行っていた岩石・鉱物の採集に漫遊し、企画展示にもあった「長野県地学標本」を県下の学校に頒布した。その後も、私設の学校を開設したり、信濃図書館（現県立）の設立に尽くしたり、地質図を作ったりと 43 年の生涯を駆け抜けた。風体や所作、狂歌集「よいかゝほしな百首け（良い嬶欲しな百助）」を出すなど奇人としても知られているが、教育界にも大きな影響を与えたことは、今回、教育関係者の出席も多かったことから伺える。「教室で判らない子をほったらかしにするべからず」の精神、一方的に板書して教える教育ではなく実物に触れて本物を学ぶ教育、部落解放や同和教育等、信州教育に残したものは多い。

信州教育の中で、渡邊敏（わたなべはやし）とその弟の浅岡一（あさおかはじめ）とのつながりは、1886（明治 19）年に保科百助が入学した長野師範学校である。会津二本松出身の渡邊敏は 1875 年に大町村仁科学校に赴任しており、1886 年には長野学校長であった。夜学や盲・聾・養護学校の前身にも関わっている。浅岡一は 1886 年に長野県師範学校の校長となり、信濃教育会の会長にもなっている。渡邊は合理主義者で無私無欲であり、浅岡は人格主義者で実業を重んじたという。後に、保科の集めた地質資料は渡邊のいた長野高等女学校（現長野西高）に着払いでどんどんと持ちこまれたという。

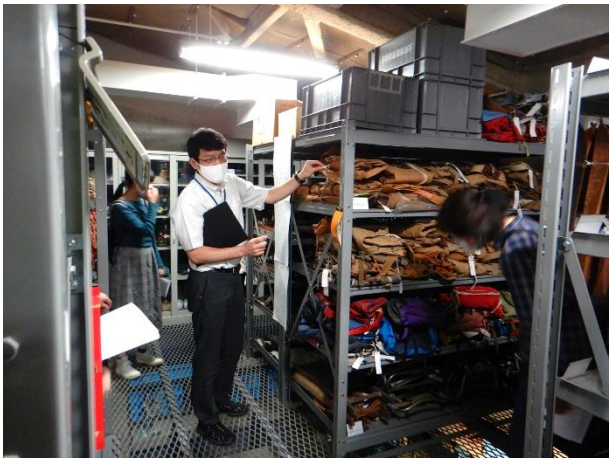
そんなお話を、地学がご専門の村田先生から伺った。会場には鉱物の標本や保科百助の出した新聞『信濃公論』の復刻や 150 年を記念して作られたカルタなども展示された。また、研究会により五無斎スイーツや書籍も販売され、保科百助の出身地である立科町の皆さんの熱意も感じるものであった。

（記　編集担当）

報　告　［友の会協力事業］

「バックヤード見学会」

《期　日》　9 月 22 日（火・祝）10～12 時
《場　所》　大町山岳博物館
《参加者》　15 名



「何があるかな？博物館収蔵庫・図書資料館を見て回ろう！」と副題して、17 名の参加で行われました。博物館からは鈴木館長、清水副館長はじめ、４名の学芸員らがご案内に当たってくださいました。

山博の収蔵するコレクションは 64,000 点ほどあり、そのうち常設展示されているのは 1,100 点ほどということです。能ある鷹は爪を隠す？人ではありませんが、コレクションの豊富さは博物館の能力でもあります。

収蔵室はどれも収蔵品でいっぱいで、密を避けて二班に分かれて回りました。私のＡ班は、１階の人文、地質、２階の植物、動物と回り、最後に山岳図書資料館に行きました。

人文関係は関学芸員の案内です。展示室には約 600 点展示されていますが、収蔵品は 12,000 点ほどあり、タグが付けられて保存されています。デジタル化も進められ、リストデータは web でも公開されています。もちろん、登山関係の用品がたくさんあります。海外での収集品や書簡、書籍などもあります。絵画、美術資料も人文範疇で、450 点ほどあるということです。

地質関係は 8000 点ほど、岩石、鉱物、化石などからなります。石の資料は手のひら大にカットされて小箱に、大箱に入れられて重々しく収蔵されています。太田専門員からは大町周辺の地史を含めてワークショップ的にご案内いただきました。

２階に上がって植物では千葉学芸員から説明を受けました。植物標本は「さく葉」と呼ばれる“押し花”が多く、北アルプスはじめ様々な環境のものが残されています。9,300 点が登録を完了しているということです。昭和のものが多く、多くの人の手が

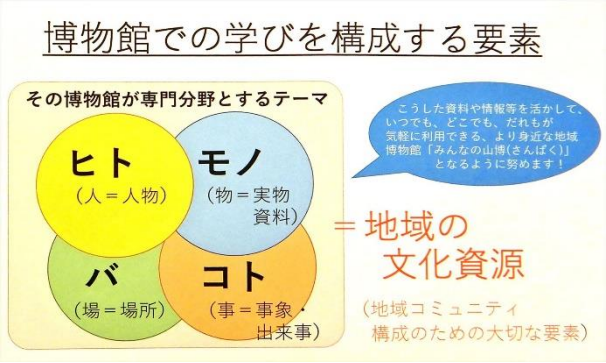
関わっていることが、ラベルから分かります。登録作業や新たな標本の採取には友の会の花めぐり紀行のメンバーも携わっています。

動物関係では栗林学芸員からお話を伺いました。もちろんはく製や箱に入った昆虫標本も多いのですが、研究用の仮はく製という死んだような姿のはく製もあります。ライチョウは 100 点ほど収蔵しているということです。植物もそうですが、将来、標本の DNA がどのように役に立つのか、日付、場所、採取者などの情報が大事だということです。

最後は再び関学芸員により、館創立 60 周年を記念して作られた山岳図書資料館です。図書資料は 35,000 点余りあり、半数近くが長野県山岳協会からの寄贈に寄ります。本の形のものから画像資料や登頂の記録などもあります。絵ハガキや切手も収集品です。書籍には百瀬慎太郎の遺稿集やウェストンの原著もあります。資料は閲覧したり借りる（一部）こともできます。

最後に副館長より文化財を守っていく博物館の役割を含めて、山博が山岳に関するものを集めていること、民族系の博物館が多い中、自然科学の展示も充実していることなどの特色をお話いただきました。戦争や火災などで貴重なものが失われる中、文化財保護法が作られ、近年、地域活性化や観光資源として、収蔵するだけでなく展示公開を積極的に進めていくようになってきているということです。

（記　編集担当）



烏帽子の会

活 動 報 告　《岩岳山》

《月日》9 月 13 日（日）　　《天気》曇り→雷雨→午後晴れ　　《参加者》16 名

《コース状況：その他周辺情報》

当初、大渚山を計画したのですが、道路状況が悪い為急遽、岩岳山に変更しました。秋の花が咲き乱れる初秋の高原をトレッキングするコースです。予定では、「どんぐり村→ゲレンデ→岩岳山頂→朴の木平→楠川下流 お軽の穴」の予定でした。

《感想》

シナノナデシコ

平川のトイレで

コロナの自粛が続いていたので今年 2 回目の烏帽子の回となりました。当初計画した大渚山で少し登山気分をと期待していたのですが、変更になって少しがっかりしましたが、私にとっては初めてのコースでしたので興味はありました。どんぐり村に行く途中の平川のトイレ休憩で一人を除き全員が揃ったところで、天候が悪いのでコースを岩岳山頂までのピストンにするか、朴の木平から「お軽の穴」まで行くか相談があり予定通りのコースで行くことになりました。ドングリ村には一台の車だけおいて残りの車は「お軽の穴」に置いてくる事になりました。「お軽の穴」に移動して澤渡さんを乗せて一台で戻ってくることにした為、残りの人たちはドングリ村についた時から小雨が降っていたので雨具を着てゆっくり登り始めました。まず始めに、うす紫かピンク色の「シナノナデシコ」の色の鮮やかさに感激し久しぶりに見る「アケボノソウ」の花にびっくりしました。その後このコースは道の両側が「アケボノソウ」の並木？のようにたくさん咲き誇っており、雨に濡れた花々の様子は秋を感じさせるには充分でした。途中後続の人たちを待つ意味もあってそれぞれ自己紹介をしたりして山行していくと、程なく後続組が追いついてきました。その頃(9:20)から雨足が強くなり始めました。大きな雷が鳴ってそれから雷鳴が止まらなくなりました。しばらく歩き岩岳のゴンドラの見える所まできたところで、雷雨の中の山行は危険ではと言う事で引き返すこと

アケボノソウ

を決めました。10:00 頃にはドングリ村まで戻ってきました。そこで澤渡さんに白馬村に伝わる「お軽の穴」の民話を説明していただきました。僅か 2 時間余りの山行でしたが、雨に濡れた「アケボノソウ・シナノナデシコ・ガマズミの赤い身」などの色の鮮やかさで秋の気分をしっかり堪能することができました。次回天気の良い日に再び訪れてみたくなりました。久し振りに仲間に会えて僅かの間でしたが楽しい会話ができたことも良かったです。

オトコエシ

これは何？

クララ

ここで U ターン　お疲れ様！

《コースタイム》

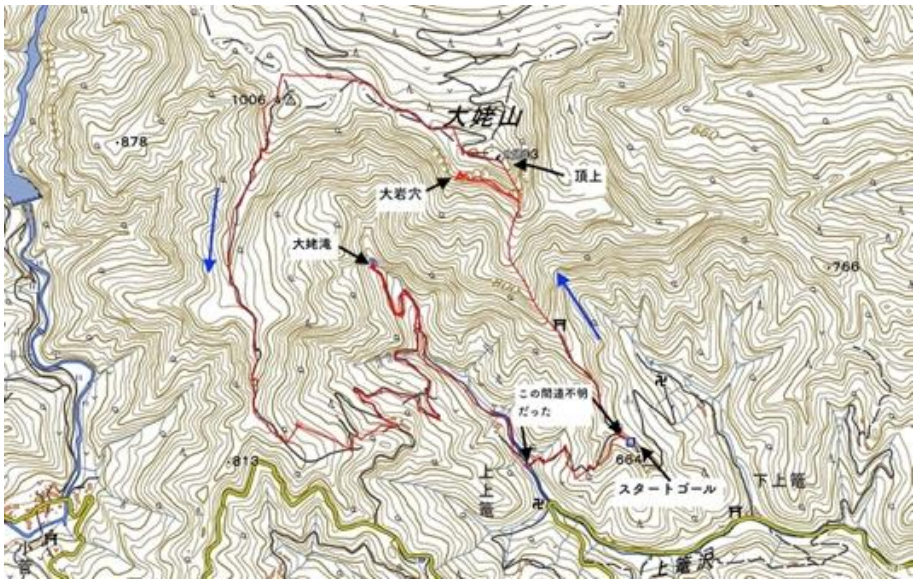
大町市役所 7：00→平川公衆トイレ 7：45→どんぐり村着 8：00→出発 8：10→どんぐり村 10：00→大町市役所 11：00

活 動 報 告　《大姥山》1003m

《月日》11 月 7 日（土）　　《天気》曇り　　《参加者》20 名

《コース状況：その他周辺情報》

大姥山（1003m）　登りは 9 か所の鎖場でかなりスリリングでおもしろい。1003m とは思えないくらい登りがいがある。



頂上にはテレビ塔があり東屋もあって天気がよければ360°眺望が望める。
下りは鎖場とは正反対に大姥の散歩道と言われているとおりルンルンに歩いていける。ただ最近は倒木等も目立ち、藪になっているところもあり、下見の時に草刈が必要だった。とても変化にとんだおもしろい山だった。

《感想》

1週間前から天気予報が気になり、どうも天気が下り坂で日曜日に予定変更しようかどうか前日まで迷いましたがなんとかお天気ももって紅葉もちょうど良く最高の一日になりました。
参加人数も過去最高に並ぶ20名と大勢参加していただきました。体温測定、マスク着用し換気をしながら5台の車に乗り合わせで駐車場まで行きました。大町から30分ぐらいでいける所にこんなにおもしろい山があることを知っていただけて良かったと思いました。
大姥の散歩道ではかつらの木の甘い香りや何の木かわかりませんでしたがとてもいい香りがしてリラックスした気持ちになれました。

今回お試し参加の永井一郎さんが正式に「烏帽子の会」の会員になられました。また楽しい仲間が増えました。

《コースタイム》
大町市役所 8：00～相川トンネルそばのトイレ～駐車場 8：50～大姥神社 9：12～大穴 10：00 大穴 10：30～大姥山山頂 11：00（昼食）～大姥山山頂出発 11：30～大姥の滝 13：20～駐車場 14：00～大町市役所 14：45 解散

次回 12 月例会は、11 月 21 日（土）に糸魚川の「神秘の森アドベンチャー　越後八十八か所めぐり」を予定しています。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

屋外の環境整備ボランティアは 10 月で一応終了しました。今年度の作業はコロナウイルス感染症予防のために、5 月のニホンライチョウの餌取りから始まりました。マスクを着用しながら 3 密を守り、6 月から 10 月まで館周辺の環境整備に延べ 100 人を超える会員が参加しました。刈り払い機での除草協力も大きく、スバールバルライチョウ舎周辺、高山植物育苗環境の整備など例年以上に環境整備の範囲が拡大されました。

10 月の富山県立山博物館等でのサークル合同研修にも多くの会員が参加しました。研修に学びながら、多くの会員が館内ガイドが出来る研修を冬期間に計画したいと考えています。ボランティアサークル会員は常に募集中です。一人でも多くの皆さんの参加をお待ちしています。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

研修報告

令和2年10月25日『立山博物館』にて

去る 10 月 25 日、山岳文化研究会とボランティアサークルとの合同研修で、富山県［立山博物館］と立山カルデラ砂防博物館を 24 名で訪ねました。

立山博物館では高野学芸員より剱岳の錫杖頭や立山信仰（立山曼荼羅）などのお話をうかがいました。カルデラ砂防博物館では、山博でもお世話になっている飯田学芸課長より立山の自然や地形地質、氷河などについてお話いただきました。いずれも、人と自然の関わりは、陽と陰、恩恵と災いの二面性があるというお話でした。

出発に先立ち、10 月 8 日に、山博関学芸員により特に大町側の立山信仰などについて講義をしていただきました。

「バスで行く富山県 立山博物館」に参加して

宮島　順一

富山県 立山博物館等を訪ねる企画の募集に参加を申し込んだ。今回は友の会の山岳文化研究会、ボランティアサークルの合同企画。

大型バスで大町市役所を出発し、途中で乗車する参加者をピックアップ。新型コロナウィルス症感染防止のため座席は二席を一人で占有できるのでゆったりすわれた。宮澤会長が車内から道中のポイントを説明していただき大変勉強になった。特に松澤貞逸さんが交通事故で亡くなった事は書籍等で知っていたが、場所は知らず参考になった（大正 15 年ハンドルが折れた車は土手下へ転落、貞逸は 37 歳の若さで急逝した）。

佐野坂を通過するころは車窓から三段紅葉が見え撮影。糸魚川 IC より北陸自動車道を順調に進み有磯海 SA で休憩。今回は GOTO トラベル利用により地域クーポン 1000 円をいただいたので、SA 売店で早速使用する。

富山県 立山博物館では後期特別企画展「戦国武将と立山」が開催中で、始めに階段を上り三階へ。秋のブナ林を復元した展示物に感心した。実際の木やササ等は特殊な薬品で処理しているそうだ。階段を降り学芸員から立山曼荼羅の掛け軸の説明を受け、劔岳で発見された錫杖頭（平安初期）を見学した後、越中国一之宮・日本三霊山、雄山神社祈願殿へ。ここはパワースポットだそうで参道はうっそうとした杉の大木が林立しており霊気を感じる。

次に「山岳集古未来館」へ。平成 25 年の開館で山岳文化に係る資料の展示、芦峅寺の山岳文化、立山・黒部の登山史が紹介されており、今回一番興味が持てた場所であったが、時間切れで十分見学できず残念であった。次の機会に期待しよう。伊藤孝一のフィルムや堀田彌一、竹内鳳次郎・ヒサの展示物が特に気にかかった。

その後宿坊であった隣の「教算坊」へ。苔の庭が大変素敵で七五三の写真を撮影している家族がいた。

その後、まんだら遊苑へ。ここは残念ながら期待外れでバブルの時に作ったのか維持が大変そう。立山国際ホテルで昼食をいただき、立山カルデラ博物館へ。二回ほど入館したことがある施設であるが、飯田さんの解説が上手で、あっという間に時間が過ぎてしまい、できれば「まんだら遊苑」をパスし三館の時間を十分とっていただければ嬉しかった。

予定通り大町市役所に戻り見学は無事終了した。今回の企画を計画していただいた役員の皆様ご苦労様でした。心より感謝申し上げます。宿泊を伴う研修会も是非ご検討ください。

サークル研修に参加して

ひきま　けいこ

前日の雨が上がって輝かしいほどの朝日に、見上げた北アルプスは初冠雪。私は、道々大きな石のお話を耳に、目には雪の峰々をみてぼんやりしていたのだろうか。

立山博物館で、こんな出会いをするとは思わなかった。学芸員の方のユーモアに導かれて曼荼羅の説明を聞きながら、ゆっくり絵をみたいと、後ろを振り向きふりむきしていた。

地獄には不思議に心惹かれる魅力があるようだ。以前から私は、地獄の絵本に出会うとよく手にとっていた。立山曼荼羅も、さぞかし多くの人々の耳目を引き付けてきたにちがいない。

うそをつくのはいけないこと…　誰から教えられたの？　母から？　うそをついたら、えんまさまに舌をぬかれる。えんまさまが何なのかなにも知らずに、だけど、子ども心にも小さなおそれを抱いたようだ。幼いなりに、自分がうそをついていると

わかっていたのだろう。えんまさまのいる地獄ってどんなところだろう。

今日わたしたちは、コロナという未知のウイルスに直面して、出口の見えない怖さのようなものを感じている。戦や、はやり病などのまんなかで、昔から、人々は目の前に立ちはだかる現実に、どれほどの恐れを抱いただろう。そしてさまざまの地獄を想像し、同じほどの思いを込めて極楽を描いたのだろう。

丸木位里・俊の共作による「原爆の図」、ピカソの描いた「ゲルニカ」などなどを想う。これも、描かれた時と、ところこそ違え、おそれと願いとをこめた「曼荼羅」だったのか。

「地獄は一定すみかぞかし」。歎異抄の一節。地獄はあの世でない、この世にあるとの言葉が胸に迫る。

今夜は十三夜。栗名月というそうだ。月から見る地球は、どのように見えるのだろう。

ゆきつばき通信編集室より

サークル研修の報告や感想、ありがとうございました。来年のご案内などを載せていると、もう年末のような気分になってしまいます。比較的暖かいとはいえ、山は何度か白くなり、間もなく里に下りてくるころで、やはり年末なのでしょう。

最近、SDGs（エス・ディー・ジーズ）という言葉を聞く機会が多くなってきました。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略号で、地球全体のすべての人が差別区別なく、地球を傷めることなく成長していこうという、2030 年までにやるべきことがリストアップされています。博物館や私たちの活動も、例えば気候変動対策や生態系の保全、生涯学習の推進など、いくつかのゴールを目標に掲げられると思います。高齢化で持続の怪しい友の会ですが、次世代への責任は果たしたいと思います。

（丸山卓哉）

ゆきつばき通信　第 185 号
発行／大町山岳博物館友の会　　2020 年 11 月 15 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334